

視察報告書

平成30年10月29日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会

(代表) 議員 米田 勝彦



政務活動費により行政視察を実施しましたので、次のとおり報告します。

記

- 1 視察期間 ■平成30年10月22日(月)から平成30年10月24日(水)まで
- 2 視察先 ■永平寺町：福井県吉田郡永平寺町松岡春日1-4
■宮津市：京都府宮津市字柳縄手345-1
■舞鶴市：京都府舞鶴市字北吸1044
- 3 視察議員名 米田勝彦・佐々木敬敏
- 4 面会者 ■別紙「名刺写し」のとおり
- 5 視察目的 ■端末交通システムについて
於 永平寺町役場・現場

■竹資源活用について
於 宮津市役所

■舞鶴版コンパクトシティについて
於 舞鶴市役所
- 6 視察の経過及び感想
■別紙「視察の経過・感想」のとおり
- 7 添付書類
■視察先提供資料
(1)

要した経費： 2人合計 132,340円

平成30年10月22日(月) 15:00~16:30

○ <端末交通システム>

於 永平寺町役場

於 自動運転の走行試験現場

視察目的

- 自動運転車が地域の暮らしにどのような効果をもたらすかを学ぶため。

視察経過

- 私たちの視察日は自動運転実証実験が始まります10月29日の1週間前でシステムの調整をしておられました。
- 実験場は、永平寺の参道に走っていた延長6kmの私鉄の廃線跡地の町道で、沿線には町人口19,800人の内14%の2,800人が暮らしておられます。
- 高齢の方、通勤通学、観光客などで、路線バスしか移動手段を持たない方々を対象とした実験です。
- この実験の所管は国交省と経産省で、国が6千万、県と町が3千万づつ、計1億2千万円の補助事業です。
- 町は、自動走行車を、観光資源として活用し、観光客、交流人口、雇用機会、生産年齢人口などの増加を図って地域を活性化しようと、取組んでおられました。

視察感想

- 人口減少が進み、地方公共交通が衰退する中で活力ある街を作っていくためには、交通弱者と言われる車を持たない高齢者、子ども、障がいのある方などにとって、使い勝手の良い移動手段が必要です。永平寺町の自動運転車両は、それに応えるものだと思います。
- 今までは、自分で運転する車社会でしたがこれからは、自分で運転しない車社会を環境や経済など様々な要因から日欧米は目指しています。
- そうした背景も踏まえ、国が取り組んでいます自動走行車交通体系は、地域の活性化に必要な取り組みだと、永平寺町の若い2人の職員の方から、自動走行車の必要性の熱心な説明を受けながら、思いました。

① 出発点 (えちぜん鉄道永平寺口駅)

6km

② 終点 (永平寺)



②車は、町道に埋設された電磁誘導線に沿って自動運転走行。 道路幅員3m



③倉吉線の跡地のような所を走行。



④下画面の黄点は、車の停車場所。

下画面の右下の赤点は監視室の場所で、農業集落排水施設内にある。



⑤車は、安全上、監視する。車載カメラから送られてくる映像をみて、緊急時は、下画面の左下にあるハンドル等で、自動走行車を遠隔操作する。



平成30年10月23日(火) 13:30～15:00

○ <竹資源活用>

於 宮津市役所

視察目的

- 繁茂する竹を、資源として活用できないか探るため。

視察経過

- 宮津市は、人口が昭和30年に36,200人でしたが、平成27年は18,400人です。
- 地域力が衰退していく中、宮津市は、地域資源を「宝」として捉え、それを活かしたまちづくりを、30年後を見据えて進めていると、説明を受けました。
- その1つが、竹で、平成22年に、「竹資源有効活用プロジェクト」をスタートされています。
- しかし、竹を事業活動の原材料と考えるならばそれへの供給は、安定した量を維持する必要があります。
- そこで、平成25年に「竹資源管理センター」が民間事業者により設立され、竹林の管理と、竹材の安定供給システムが構築されています。
- センターでは、「原竹」を扇子、「竹表皮」の殺菌作用利用製品、「竹チップ」のバイオマス燃料、「竹炭」の反射が少ない性質を利用した車のコンソールボックス、「竹粉」の堆肥、飼料、バイオプラスチック、など様々な分野への活用を図っておられます。

視察感想

- 放置されている竹林を、地域資源ととらえ、竹の持つ、抗菌性・脱臭作用を活用して新産業の創出と雇用の確保を図る取り組みは倉吉の地域経済力を高める一助になると感じました。

於 宮津市役所玄関



於 会議室



平成30年10月24日(水) 9:30~11:30

○ <舞鶴版コンパクトシティ>

於 会議室

於 舞鶴市役所

視察目的

- 人口減少社会に対応するまちづくりを学ぶため。

視察経過

- 人口減少社会に対応するまちづくりについて、説明を受けました。
- コンセプトは、「子どもからお年寄りまで安心して暮らせるまち・舞鶴」です。
- 人口を見ますと、昭和35年97,000人が平成27年には84,000人、平成52年の予想は67,000人です。
- そこで舞鶴市は、平成52年の市の基本人口を6万人に設定し、コンパクトでも人々が豊かに暮らせるまちづくりに取り組んでおられます。
- まず、市街化区域及び市街化調整区域を見直し、時代にあった都市計画マスタープランを作成されました。
- 次に、今後の財政の減少、社会福祉費の増大、経済活力の収縮等の中で、まちを維持していくためには、既存の公共施設やインフラを活用し、また土地利用の適正化を図るため、まちをコンパクトにする必要があります。立地適正化計画を策定されました。
- この2つの計画を基本にして、行政と市民の皆様とが情報を共有して、まちづくりを進めていると、説明を受けました。
- 特に、まちづくりは長い時間がかかるため、取り組みを継承するには、次代を担う子どもたちとの連携が必要だということでした。

視察感想

- どこの自治体も、計画は作りますが、重要なのは、計画を実現することです。
- 舞鶴市は、その点をしっかりと把握されておられますが、取り組みの厳しさも実感しました。しかし、全体的な考え方は、倉吉市としても参考にしたいと、思いました。



於 市役所前バス停

観光スポットを巡るループバスの終了の案内版

